

第22回母から子への手紙コンテスト 入賞作品を紹介します

原文のまま掲載

今年も完全無視でしたね。5月にある、あの日、カーネーションが街にあふれる、あの日です。外を歩けば、カーネーションを抱えた子どもたちの姿、スーパードに行けば「お母さん、ありがとう」と、パックの上に貼られたシール。それを見るたびに「はい、はい。うちは母の日は無いんだよ」と拗ねながら、でも帰ったらカーネーションあるかな……とか期待もしながら……結局何もなくて、いつもより力を込めてかき混ぜた納豆を乗せたご飯が心に染みだのを思い出します。

モヤモヤ解消に本でも読もうと本棚を見ていたら、保育所に行っていたころのノートが出てきました。パラパラとめくってみたら、そこには「おかあさん ありがとう」の言葉が。何度も、何度も。字の練習のために選んだのが「おかあさん ありがとう」だったんだね。そうか、だから私には「お母さん、ありがとう」とは無いのね。既に一生分の「おかあさん ありがとう」が、そこにあったから。

兄を追いかけて走り回っていた六歳の夏、君は突然病魔に襲われた。ネフローゼ症候群の中でも「巣状糸球体硬化症」という難病。大学一年の夏、私から腎移植を受けるまでは、聞くも涙語るも涙のドラマがあったね。

厳しい塩分と水分、運動の制限。薬の副作用で顔はパンパンになった。小児科状態ながらも常に再発にビクビクし、一旦入院となるときはしばらく家へ帰れない。高校一年の時には四ヶ月程寝た切り状態になった。十六歳で下を取ってもらおうという屈辱にも耐えた。また、家庭での腹膜透析も経験した。毎晩三〇ℓの透析液交換が、当時の君の命綱だったね。

どんな状況下でも、泣き言も言わず現実を受け入れた君を母は誇りに思う。苦難を乗り越えて来た分、誰より幸せになれるといいな。まだ闘いは続くけれど、病気とはうまく付き合いながら長生きしてね。

この秋、君は誰より強くて頼しい父となる。楽しみだね！嬉しいね！幸せだね！

大賞作品 上島直美さん(埼玉県)



大賞作品を朗読する上島さん



日本郵便賞を受ける浅見さん

第22回母から子への手紙コンテストの表彰式は12月3日、学びなで行われ、大賞を受賞した上島直美さん(埼玉県)ら受賞者をたたえました。表彰式では、二瓶盛一実行委員長があいさつ。二瓶実行委員長と大竹伸明実行副委員長が各賞の受賞者に賞状を手渡しました。

また、審査委員長を務めた芥川賞作家の玄侑宗久さんをはじめ、元NHKアナウンサーの末利光さん、エッセイストの大石邦子さんが講評し、末さんが「コンテスト22回を終えて」と題した講演を行いました。

今年のコンテストには、全国から1151点の応募があり、町内の1次選考委員が上位50作品を選出。最終選考会では、玄侑さん、末さん、大石さん、1次選考委員代表の楠美枝子さんの4人が厳正に審査し、大賞などの各賞を決定しました。

日本郵便賞作品 浅見文子さん(愛知県)

まちの応援マガジン いなわしろ 広報 猪苗代

Jan.2024
1
No.759



【撮影日】11月25日
【場所】さくらこども園

今月の表紙

さくらこども園の保育発表会で白虎隊の剣舞を披露するさくら組の佐藤郁磨くん(右)と佐藤菜月ちゃんです。【関連7ページ】

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick Up
— 母から子への手紙コンテスト表彰式 —
- 06 まちのわだい
- 08 いなわしろタウンページ
- 16 暮らしの情報広場
- 18 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー